

宇部市石炭記念館リニューアル 基本構想

令和6年5月

宇部市

目 次

1	はじめに	1
2	基本構想の策定にあたって	2
3	宇部市石炭記念館の概要	3
	1 設立された経緯	3
	2 沿革	4
	3 位置	4
	4 施設の概要	5
	5 教育普及に関する取組	11
	6 イベントの実施状況	12
	7 入館者数の推移	13
	8 施設老朽化の現状	14
	9 国内の類似施設との比較	17
	10 市民アンケート調査の実施状況	18
4	現在の石炭記念館が抱える課題	22
	1 提言書に示された課題	22
	2 行政が抱える課題	23
5	これからの石炭記念館が果たすべき役割	24
6	石炭記念館に求められるもの	25
	1 機能	25
	2 基本的な取組	26
	3 検討方針	27
7	今後の進め方	28
	1 スケジュール	28
	2 基本計画策定に向けての進め方	28

1 はじめに

宇部市石炭記念館は、山口炭田(宇部炭田・大嶺炭田)の石炭産業の歩みを永く後世に伝えるために誕生した施設です。以来、炭鉱によって生まれた文化や技術の伝承の拠点として、また、宇部市民のアイデンティティーを醸成する場所として、半世紀以上にわたり市民に愛されてきました。石炭記念館そのものが宇部市の歴史のシンボルであると言っても過言ではないと考えます。

こうしたことを踏まえて、今後の石炭記念館のあり方を検討していくためには、石炭産業を単に過去のものと捉えるのではなく、今でも私たちの生活基盤に欠かせない技術があることや、そこから新しい技術が生まれているといった未来の私たちにもつながるものと再認識する必要があります。そのためには、市民一人ひとりに自分事として考えていただき、石炭記念館の未来像を市民と共に作り上げ、共に協働していくことが大切です。その意味で、基本構想、基本計画と進めていく初期の段階から、市民とともに協力、連携できる体制をつくる必要があると考えています。

築後50年以上が経過した石炭記念館の老朽化は待ったなしの状態にあり、これ以上、結論を先延ばしすることなく検討を進めなければなりません。そのためには、市民やさまざまな分野の有識者と協働し、今後のあり方を早急に検討することが重要です。

2 基本構想の策定にあたって

宇部市石炭記念館は、日本初の石炭をテーマにした博物館施設として、1969年(昭和44年)11月1日に開館しました。

「宇部市発展の礎となった石炭が、当地にもたらした多大な恩恵に感謝し、幾多の貴重な文献器材を整備して、その歩みを永く後世に伝える」ことを目的に誕生した石炭記念館では、山口炭田(宇部炭田・大嶺炭田)に関連する炭鉱資料の収集や調査研究を進め、展示内容の充実や山口炭田史の伝承に力を注いできました。石炭記念館の収蔵品は、2007年(平成19年)、経済産業省の近代化産業遺産に選定されています。

石炭記念館の上部にそびえる展望櫓は、かつて市内にあった東見初炭鉱で閉山まで活躍した豎坑櫓を移設し、展望台として再利用したもので、宇部に残された数少ない炭鉱遺産です。また、豎坑櫓だった施設に上ることができる全国的にも珍しい建造物として、多くの来館者に親しまれています。



しかし、開館から50年以上が経過し、建物や設備の老朽化が進むなか、石炭記念館の「今後のありたい姿」を検討する時期にきています。

このため、2023年(令和5年)2月、有識者や市民等で構成する「宇部市石炭記念館あり方検討委員会」(以下、「検討委員会」という。)を設置し、4回にわたる委員会での議論を経て、同年10月31日、「宇部市石炭記念館のあり方に関する提言書」(以下、「提言書」という。)をいただきました。

検討委員会の提言書では、「石炭記念館を恒久的な価値ある施設と位置付け、新たな時代にも十分耐えうる機能をもった施設に生まれ変わることが重要」との意見をいただいています。

本基本構想は、石炭記念館が単なる展示場としての施設にとどまることなく、新しい時代のニーズに即した機能を有する施設として継続していくために、今後の石炭記念館が果たすべき役割や機能について取りまとめたものです。

3 宇部市石炭記念館の概要

1 設立された経緯

現在の宇部市域を含む、宇部、山陽小野田一帯はかつて「宇部炭田」と呼ばれ、石炭の産出地としてその名を知られてきました。

宇部炭田の歴史は古く、少なくとも江戸時代前期ごろにはすでに石炭が採掘、利用されていたと考えられています。当時の石炭は家庭用の燃料として利用されていましたが、江戸中期以降から瀬戸内海沿岸で製塩業が盛んになると、産業用の燃料として使われるようになりました。明治中頃以降、より豊富な資源を求めて海底開発が進められると、宇部市は海底炭鉱の街として栄え、日本の近代化を支えるまでに発展しました。しかし、昭和30年代から始まったエネルギー革命により、石炭産業は斜陽化し、1967年(昭和42)年を最後に、宇部炭田のすべての炭鉱は閉山しました。

宇部炭田閉山が差し迫る中、地元経済界を中心に石炭産業の歩みを後世に伝えるための施設を要望する声があがり、1968年(昭和43年)12月、商工会議所から市へ石炭記念館建設に関する陳情が行われました。そして、翌1969年(昭和44年)1月、商工会議所会頭、宇部市長を代表とした石炭記念館建設委員会が発足しました。

石炭記念館の建設に向けては、多くの地元財界人や団体、市民からの寄付が寄せられ、その額は建設費用の約6割に相当するものでした。また、数多くの貴重な展示資料の寄贈もいただくなど、当時の市民の熱い思いで石炭記念館の建設は実現したのです。

そして、1969年(昭和44年)4月、宇部炭田発祥の地と伝わる常盤湖畔の地で建設が始まり、同年11月1日に宇部市石炭記念館は開館しました。



(石炭記念館開館当時の外観(S44))



(石炭記念館現在の外観(R5))

2 沿革

西暦	和暦	主なできごと
1968	昭和 43	12月14日、宇部商工会議所が、市に石炭記念館建設を陳情。
1968	昭和 43	12月20日、宇部市と宇部商工会議所が推進母体となり、石炭記念館の建設を決定。
1969	昭和 44	11月1日、石炭記念館が開館。東見初炭鉱の電車竪坑櫓の寄贈を受け、本館屋上に移設して展望台とするためのエレベーターを設置。入館料は無料、展望エレベーターを利用する場合は大人50円、小中学生は30円。
1970	昭和 45	10月30日、モデル坑道が完成。
1979	昭和 54	6月1日、展望エレベーター利用料を大人100円、小中学生50円に改定。
1989 ～90	平成 元 ～2	展示改修工事を実施。1、2階及び屋外展示エリアを改修。
1994	平成 6	6月26日、展望エレベーター無料化。
1996	平成 8	日本最後の木造機帆船「天神丸」の部材を展示するため1階の一部を改修。
1999	平成 11	石炭記念館老朽度調査を実施。
2001	平成 13	1～3月、展望櫓改修工事：非常階段更新、構造補強及び塗装、エレベーター改修、空調工事等を実施。
2008	平成 21	3月、展示システム改修工事：1階展示エリアパネル展示更新、2階DVDシステム導入等を実施。屋外展示物（巻上機）塗装。
2012	平成 24	7月、照明設備改修工事（LED化）。
2019	令和 元	11月1日、開館50周年を迎える。

3 位置

石炭記念館は、本市を代表する都市公園「ときわ公園」の中にあります。ときわ公園の正面入口にほど近い、公園の南側に位置し、近くには動物園や遊園地があるなど、多くの人々が集う「にぎわい・観光エリア」の主要施設の一つにもなっています。



4 施設の概要

(1) 施設の位置付け

石炭記念館は、博物館法に規定される博物館の登録・指定を受けていませんが、博物館と同種の事業を行う「博物館類似施設」として位置付けています。

(2) 施設の役割

1) 宇部市発展のシンボルとしての役割

- 石炭産業により発展してきた地域の歴史を後世に伝える

2) 山口炭田(宇部・大嶺)の炭鉱の記録や記憶の集積地としての役割

- 石炭産業やそれに関わる記憶や記録などの資料の収集、保存

3) 観光の拠点としての役割

- 竪坑櫓を展望台に再利用した全国的にも珍しい建造物という特徴
- 展望台は、常盤湖や市街地、空港、周防灘などが望めるビュースポット

4) 歴史や技術、文化について学び、体験できる拠点としての役割

- 炭都うべの歴史教育の拠点
- 宇部の海底炭鉱の坑内を再現したモデル坑道が体験できる

(3) 施設の特徴

1) 日本初の石炭をテーマにした博物館施設

2) 全国的にも珍しい、竪坑櫓を再利用した展望台

3) 収蔵品は、2007年(平成19年)に経済産業省の近代化産業遺産に選定

4) 民間主導により建設、費用の大半は市民や炭鉱関係者の寄附による

5) 宇部炭田や大嶺炭田で使用された炭鉱関連資料を収蔵し、屋内外に展示

(4) 建物概要

所 在 地		宇部市 ときわ公園内(野中3丁目6)
開館年月日		昭和44年(1969年)11月1日
総 工 費 (竣 工 時)		6,329 万円 (地元政財界・市民等からの寄附 3,611 万円 宇部市負担金 1,700 万円 山口県助成金 1,000 万円他)
本 館	構造	鉄筋コンクリート構造
	階数	2 階
	面積	927.84 m ² (1階/487.52 m ² 2階/440.32 m ²)
展望櫓	構造	鉄骨造
	高さ	28.48m
	面積	14.49 m ² (展望室)
モデル 坑 道	構造	鉄筋コンクリート構造
	全長	75m
	面積	220 m ²

(5) 展示・収蔵品の状況（令和5年12月現在）

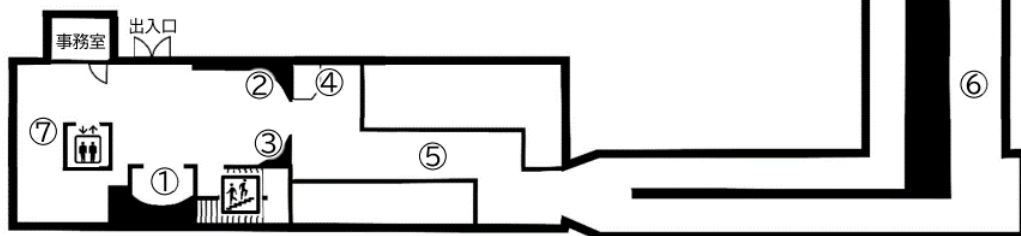
機械器具 (レプリカ含む)	・ツルハシ ・コールピック ・蒸気ポンプ ・カップ ・摩擦鉄柱 他	502点
模型	・宇部の海底炭鉱模型 ・南蛮車模型 他	143点
化石・標本 (レプリカ含む)	・宇部サイ化石 ・硅化木 ・山口炭田の 塊炭 他	127点
美術作品	・江藤斎彦「低炭層 寝掘り」(油彩) ・竹本勘一「松津炭鉱」(油彩) ・戸野昭治郎「落日」(油彩) 他	39点
文書類	・国家試験合格証 ・有資格者証明書 他	30点
衣服・装身具	・坑内着 ・保安靴 ・救護班バッジ 他	11点
写真	・坑内写真 他	10点
その他関連資料	・斜坑銘板 ・生活用品 他	7点
合 計		869点

※上記点数については、現在整理が済んだもののみを対象としており、
正確な収蔵品数は現在調査中。

(6) 展示概要

1 階

- ① 緑と花と彫刻のまち宇部
- ② 姉妹都市ニューカッスル 紹介パネル
宇部炭田と炭鉱(やま)の歌 紹介パネル
- ③ 世界の炭田
- ④ 炭鉱のようす
坑道のしくみ
- ⑤ 炭鉱を支えた機械
- ⑥ モデル坑道
- ⑦ 木造機帆船「天神丸」



① 緑と花と彫刻のまち宇部
石炭の恩恵で発展した現在の宇部市を映像と地形パネルで紹介



② 姉妹都市ニューカッスル/宇部炭田と炭鉱(やま)の歌
オーストラリアのニューカッスル市と、宇部の炭鉱で生まれた短歌「炭鉱の歌」を紹介



③ 世界の炭田
世界各地にある主な石炭の産地を紹介



④ 炭鉱のようす/坑道のしくみ
宇部の海底炭鉱がひと目でわかる模型や坑内の排水、通気等のしくみを紹介



⑤ 炭鉱を支えた機械
坑内の運搬や排水など、炭鉱で活躍した機械を展示



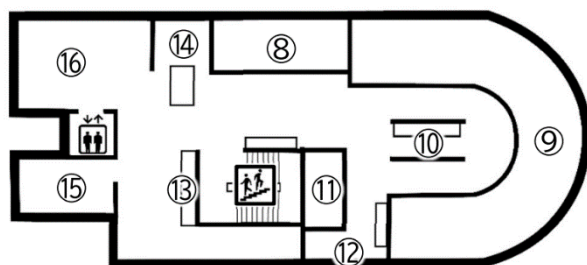
⑥ モデル坑道
宇部の海底炭田をモデルに、いろいろな坑道のつくりや採炭現場を再現



⑦木造機帆船「天神丸」

日本で最後の木造機帆船として活躍した「天神丸」の焼玉エンジンなどを展示

2 階



- ⑧ 太古の世界
- ⑨ 宇部炭田の歴史と民俗
- ⑩ 燃える石炭
- ⑪ すまい
- ⑫ 炭鉱を支えた道具たち
- ⑬ いのちを守った道具たち
- ⑭ 映像コーナー「石炭ものがたり」
- ⑮ ギャラリーコーナー
- ⑯ 多目的スペース



⑧太古の世界

宇部や大嶺炭田を中心に、各炭田から発見された様々な化石を展示



⑨宇部炭田の歴史と民俗

石炭の発見から現在までの移り変わりを、模型や道具などで紹介



⑩燃える石炭

山口炭田(宇部・大嶺)で採掘された有煙炭・無煙炭を展示



⑪すまい

昭和初期の炭住(炭鉱住宅)の一部分を3分の2サイズで復元



⑫炭鉱を支えた道具たち
炭鉱で使われていた照明器具や坑内作業着などを展示



⑬いのちを守った道具たち
働く人々の命を守った保安道具を展示



⑭映像コーナー「石炭ものがたり」
トロッコに乗り、映像で石炭について学べる

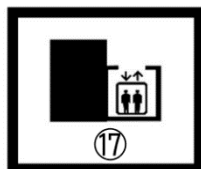


⑮ギャラリーコーナー
企画展の会場などとして利用



⑯多目的スペース
ワークショップ等の会場として利用

展 望 室



⑰ 展望室

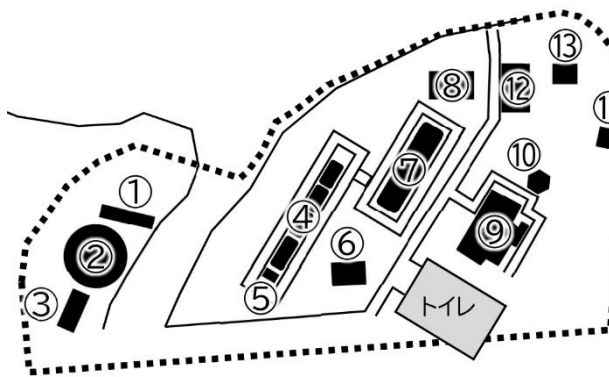


(南側の眺望)



(北側の眺望)

屋外展示



- ① 矢弦車(ヘッドシーブ)
- ② メタセコイア(石炭の原木)
- ③ 人車
- ④ 坑内石炭運搬車(ディーゼルロコ・炭車)
- ⑤ 山一坑 銘板
- ⑥ 石炭記念館 建設記念碑
- ⑦ ランカシャーボイラー
- ⑧ 試錐機
ギヤードモーター
高圧プランジャーポンプ
中塊用クラッシャー
- ⑨ 単胴コース巻上機
- ⑩ 蒸杵記念碑
- ⑪ 向田兄弟顕彰碑
- ⑫ 鉄製台車
エアーコンプレッサー(空気圧縮機)
エアーレーサー(空気溜)
- ⑬ 常盤池之碑



①矢弦車(ヘッドシーブ)
現在、石炭記念館展望台となっている東見初電車竖坑櫓の上部にあった2車のうちの1車



③人車
山陽無煙鉱業所(美祢市)の水平坑道で使用された人員運搬用の車両



④坑内石炭運搬車
山陽無煙鉱業所(美祢市)の水平坑道で使用されたディーゼル機関車で石炭等を積んだ炭車を20両つないで運搬した。



⑦ランカシャーボイラー
蒸気機関の動力源として使われたボイラー。坑内が電化された後も事務所の暖房や共同浴場の湯沸かしなどに使用された。



⑨単胴コース巻上機
山陽無煙鉱業所(美祢市)の斜坑で炭車等を巻き上げるために使用されたもの



⑫鉄製台車
坑杵、レールなどの材料を運ぶためのもの

(7) 開館以降の施設改修状況

実施時期	改修内容	事業費
1970年 (昭和45年)	展示改修工事 本館第二期工事としてモデル坑道建設	898 万円
1989～90年 (平成元～2年)	展示改修工事 1、2 階及び屋外展示エリアを改修	8,400 万円
2001年 (平成13年)	展望櫓改修工事 非常階段更新、構造補強及び塗装、 エレベーター改修、空調工事等	7,932 万円
2008年 (平成20年)	展示システム改修工事 1 階展示エリアパネル展示更新、 2 階 DVD システム導入等	499 万円
	屋外展示物塗装 巻上機の塗装	156 万円
2012年 (平成24年)	照明設備改修工事 館内照明設備のLED化	219 万円

(8) 運営状況

開館時間	午前 9 時 30 分～午後 5 時
休 館 日	毎週火曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始(12 月 29 日～1 月 1 日)
入 館 料	無料
運営主体	市直営(観光スポーツ文化部ときわ公園課)
職員体制	常 勤：1 名(学芸員) 非常勤：1 名(業務委託職員) ※土日祝及び平日で学芸員不在の日のみ

5 教育普及に関する取組 (令和4年度の実施状況)

(1) 炭鉱の語り部講座 (連続講座 全3回)

- 石炭と共に歩んだ宇部
- 桃色煉瓦(はじまりからおわりまで)と五段層について
- 神原炭鉱 創業から終業まで 共存同栄

〔参加者〕 延べ90人

(2) 学習プログラム

内容 日本初の石炭記念館に展示している炭鉱の道具や機械、また、宇部の海底炭鉱の採掘現場を再現したモデル坑道を見学して炭鉱の歴史を学ぶ

〔利用数〕 3団体(市内:1団体、下関市:2団体) 239人

(3) 学芸員ガイド

内容 県内小学校や一般団体への石炭記念館ガイド

〔利用数〕 10団体（市内：6団体、下関市：1団体、県外：3団体） 387人

(4) 社会見学等

内容 県内小学校や一般団体への石炭記念館の団体見学

〔利用数〕 12団体（市内：3団体、県内他市町：9団体） 618人

(5) 学芸員出前講座

- 宇部炭田と炭鉱(やま)の歌」
- 宇部の炭鉱の歴史と日本初の石炭記念館について

〔利用数〕 5団体（市内：5団体）

6 イベントの実施状況（2022年度実施分）

(1) クイズラリー「宇部炭田の4大発明を探そう！」

実施日 2022年4月29日(金・祝)～5月5日(木・祝) 7日間

参加者数 116人（一般34人、高・大学生12人、小・中学生62人、幼児8人）

内 容 宇部の炭鉱で発明されたといわれる「宇部炭田の発明品」を館内の展示物のなかから探すワークシートを用いたクイズラリー

(2) 石炭まつり2022

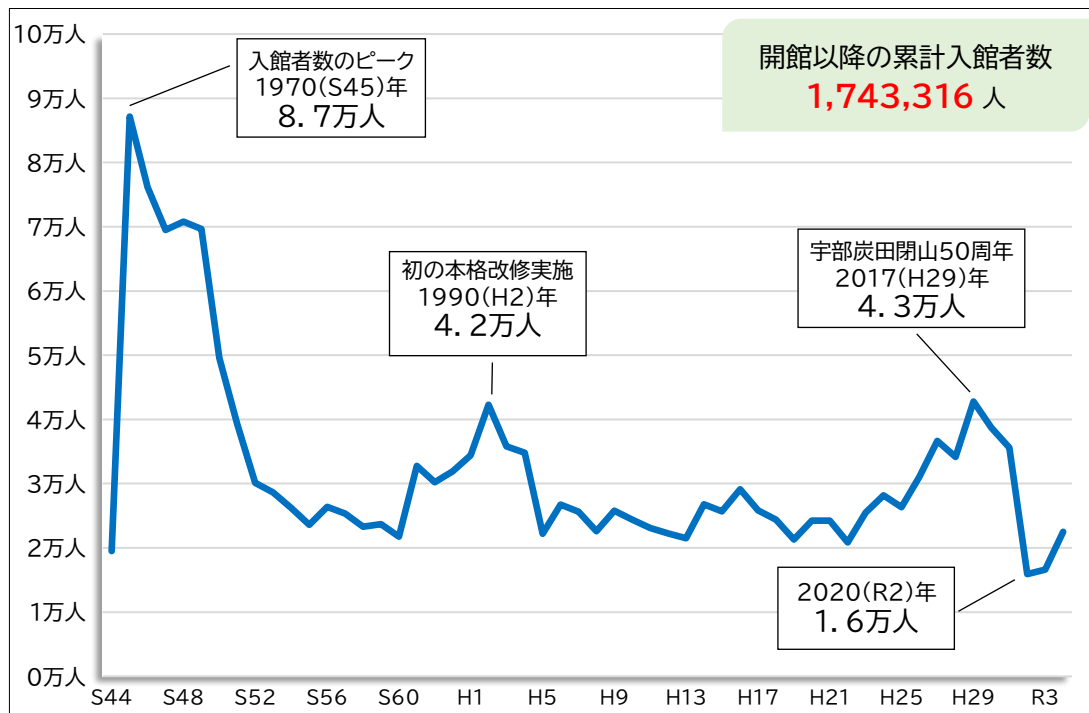
実施日 2022年10月30日(日)

参加者数 1,144人（一般567人、高・大学生14人、小・中学生282人、幼児281人）

内 容 「人車」乗車体験や石炭記念館ガイド、ウォーキングツアーなど



7 入館者数の推移（1969年度～2022年度）



<年度別入館者数>

（単位：人）

年度	入館者数	年度	入館者数	年度	入館者数
1969 (S44)	19,513	1987 (S62)	30,223	2005 (H17)	25,845
1970 (45)	87,146	1988 (63)	31,917	2006 (18)	24,367
1971 (46)	76,108	1989 (H 1)	34,421	2007 (19)	21,289
1972 (47)	69,516	1990 (2)	42,281	2008 (20)	24,244
1973 (48)	70,801	1991 (3)	35,806	2009 (21)	24,234
1974 (49)	69,633	1992 (4)	34,788	2010 (22)	20,855
1975 (50)	49,576	1993 (5)	22,187	2011 (23)	25,480
1976 (51)	39,261	1994 (6)	26,748	2012 (24)	28,196
1977 (52)	30,130	1995 (7)	25,629	2013 (25)	26,338
1978 (53)	28,622	1996 (8)	22,600	2014 (26)	31,075
1979 (54)	26,230	1997 (9)	25,771	2015 (27)	36,643
1980 (55)	23,572	1998 (10)	24,381	2016 (28)	34,144
1981 (56)	26,396	1999 (11)	23,105	2017 (29)	42,765
1982 (57)	25,346	2000 (12)	22,237	2018 (30)	38,681
1983 (58)	23,276	2001 (13)	21,486	2019 (R 1)	35,587
1984 (59)	23,675	2002 (14)	26,806	2020 (2)	15,913
1985 (60)	21,772	2003 (15)	25,700	2021 (3)	16,623
1986 (61)	32,757	2004 (16)	29,125	2022 (4)	22,496

8 施設老朽化の現状

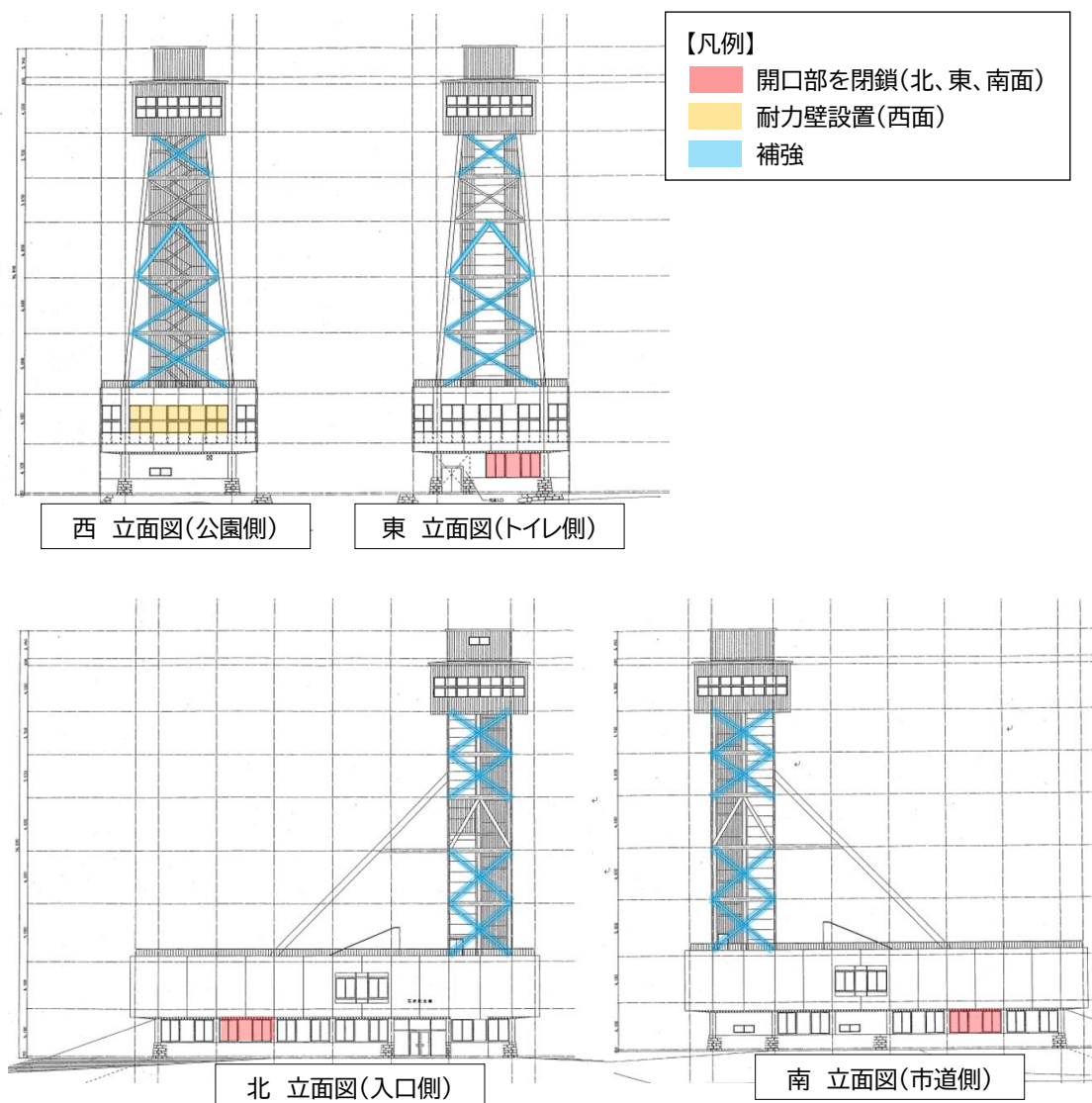
(1) 老朽度調査の実施結果

石炭記念館の建築後30年が経過した2000年(平成12年)、耐震補強や建物改修の方針を決めることを目的に、老朽度調査を実施しました。

当時の建築基準法・同施行令に照らして耐震性能等を判定した結果、下図に示す内容の耐震改修案が示されました。

この耐震改修案に基づいて、2001年(平成13年)には、下図の■色で示した箇所を中心に縦坑櫓の補強工事を実施しました。なお、石炭記念館1・2階の改修指摘箇所(下図の■、■部分)については、未着手のまま現在に至っています。

【図】耐震改修案(2000年3月作成)



(2) 建物の定期検査の実施結果

2023年(令和5年)に実施した建築基準法第12条第2項の規定に基づく定期検査では、建物の内外装で多くの問題箇所を指摘されました。また、竪坑櫓についても、前回の補強工事から20年以上が経過し劣化が進行しているため、再度の補修が必要な状態にあります。

【館内】



【1階 展示室 天井】
天井コンクリート一部爆裂、鉄筋発錆



【展望室 天井】
漏水跡(シミ)



【1階 展示室 内壁①】
壁コンクリート一部爆裂、鉄筋発錆



【1階 展示室 内壁②】
壁コンクリート一部爆裂、鉄筋発錆



【1階 展示室 内壁③】
壁コンクリート一部爆裂、鉄筋発錆



【2階 階段 室内壁】
壁漏水跡(シミ)、塗装剥がれ

【屋外】



【敷地 南側 フェンス】
全体的に発錆



【2階 東側 バランダ 軒裏】
軒天板ズレ、歪み、雨漏り跡

【屋上】



【鉄塔 架台】
コンクリート割れ



【鉄塔 展望台 下側】
腐食劣化



【鉄塔 鉄骨】
腐食劣化



【鉄塔 クランプ】
腐食劣化

9 国内の類似施設との比較

宇部市石炭記念館は、類似施設と比較すると最も古い歴史があります。施設規模は、他施設に比べて中程度ですが、全国的に珍しい竪坑櫓を活用した展望台が特色です。

*開館年の古い順に列記

施設名	所在	開館年	施設概要	施設の特徴
宇部市 石炭記念館	山口県 宇部市	1969年 (昭44年)	【本館】 鉄筋コンクリート造2階建 延床面積:927.84㎡ 【展望櫓】 鉄骨造 高さ:28.48m	●1・2 階と屋外展示場に道具や機械などの炭鉱関係資料を展示 ●地下に海底炭鉱のモデル坑道 ●竪坑櫓を展望台として活用した全国的にも珍しい建造物
直方市 石炭記念館	福岡県 直方市	1971年 (昭46年)	【本館】 木造2階建:245.98㎡ 【石炭化学館】煉瓦造:54㎡ 【新館】鉄骨2階:368.99㎡ 【救護練習所模擬坑道】117m 【屋外展示】蒸気機関車 2 台	●日本最古の救命器、炭坑関連の各種模型、機器改良の歴史紹介 ●世界の石炭化学関連の展示室 ●2tの石炭塊、炭坑の切羽をジオラマで再現
宮若市 石炭記念館	福岡県 宮若市	1977年 (昭52年)	鉄筋コンクリート及び木造 2階建 敷地面積:4,888.98㎡	●貝島炭鉱の歴史や貝島私学の歴史を中心に展示 ●アルコ22号機関車を展示
太平洋炭礦 炭鉱展示館	北海道 釧路市	1980年 (昭55年)	RC鉄骨造 地上1階、地下1階建 建築面積:608.15㎡	●日本一の大塊炭(6トン)を展示 ●坑内・外のジオラマ模型及び石炭生成過程のパネル等を展示 ●実規模の模擬坑道(80m)に採炭機器・掘進機・電気機関車等を配置
夕張市 石炭博物館	北海道 夕張市	1980年 (昭55年)	鉄筋コンクリート造2階建 建築面積:1,378㎡ 延床面積:3,573㎡	●夕張新鉱の竪坑櫓を模したエレベーターで地下展示へ下降 ●延長 180m の地下坑道で採炭作業の各種展示、採炭機械を実演運転
田川市 石炭・歴史 博物館	福岡県 田川市	1983年 (昭58年)	鉄筋コンクリート造2階建 延床面積:3,417.71㎡ 屋外(展示場、収蔵庫) 1,344㎡ 産業ふれあい館 (炭坑住宅復元):285.98㎡	●炭坑跡に整備された石炭記念公園の一角に建設 ●公園内には、竪坑櫓1基と煙突2基を当時のまま保存 ●博物館法の登録博物館 ●「山本作兵衛コレクション」をはじめ、炭坑関係資料や歴史民俗、考古資料を収蔵、展示
いわき市 石炭・化石 館	福島県 いわき市	1984年 (昭59年)	鉄筋コンクリート造 2 階建 延床面積:4,096.13㎡	●竪坑櫓を移設して展示 ●モデル坑道を設置 ●模擬坑道エレベーターを設置
長崎市高島 石炭資料館	長崎県 長崎市	1988年 (昭63年)	鉄筋コンクリート 2 階建 延床面積:329 ㎡	●高島炭鉱の模型や当時の写真などを展示 ●外庭に端島(軍艦島)の模型展示
かみすなが わ炭鉱館	北海道 上砂川町	1993年 (平5年)	(不詳)	●世界でも珍しい水力採炭の模型
大牟田市 石炭産業科 学館	福岡県 大牟田市	1995年 (平7年)	鉄筋コンクリート造 地上1階、地下1階、屋上あり 建築面積:3,043㎡ 延床面積:3,242㎡	●三池炭鉱の坑内を再現した模擬坑道設置 ●炭鉱従事者の証言を自由に視聴できる、画像動画ライブラリを設置 ●エネルギーについて知れる、体験コーナー
赤平市炭鉱 遺産ガイダ ンス施設	北海道 赤平市	2018年 (平30年)	鉄筋コンクリート造平屋建 建築面積:514.07㎡	●約 200 点の炭鉱資料を展示 ●立坑を室内から見られるレイアウト

10 市民アンケート調査の実施状況

2023年(令和5年)、石炭記念館の「今後のありたい姿」の検討を進めるうえで、広く市民の声を聞き参考とするために、したアンケート調査を実施しました。

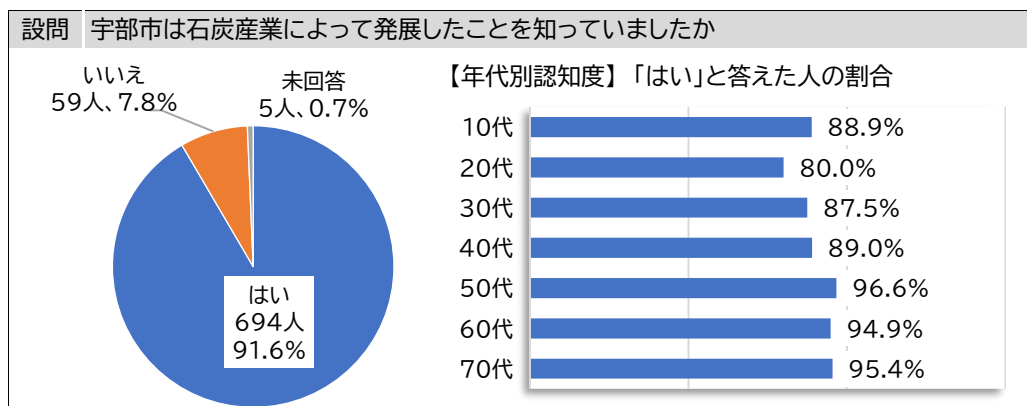
【市民アンケート実施概要】

アンケート名	宇部市石炭記念館に関するアンケート調査
実施期間	2023年(令和5年)2月20日～3月10日
対象者	宇部市に住民登録する年齢18歳～79歳の住民 (無作為抽出 3,000 人)
回答者数	758人 (回答率：25.3%)

以降では、主な設問とその回答状況について説明します。

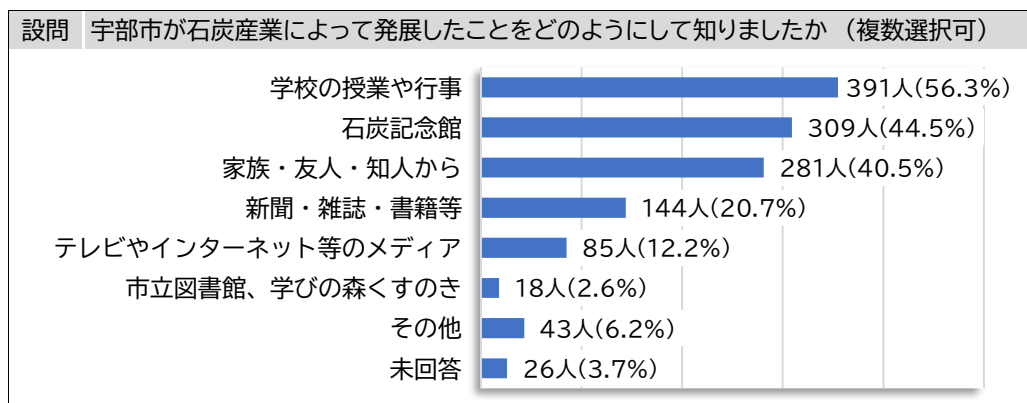
(1) 宇部市発展の歴史認知度

宇部市が石炭産業によって発展したという歴史について、知っているという回答した人の割合は全体で91.6%でした。これを年代別で見ると、一番高い割合を示したのが50歳代で96.6%、一番低い割合が20歳代の80.0%となっています。



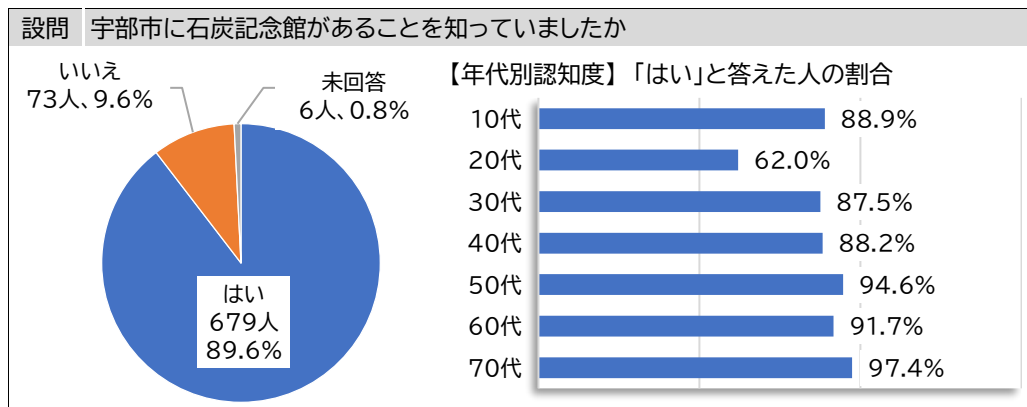
(2) 宇部市発展の歴史を知った方法

上記(1)の設問で「はい」と回答した人が、どのような方法で宇部市発展の歴史を知ったかについて、一番多い回答は「学校の授業や行事」で56.3%、次に多いのは「石炭記念館」で44.5%となっています。



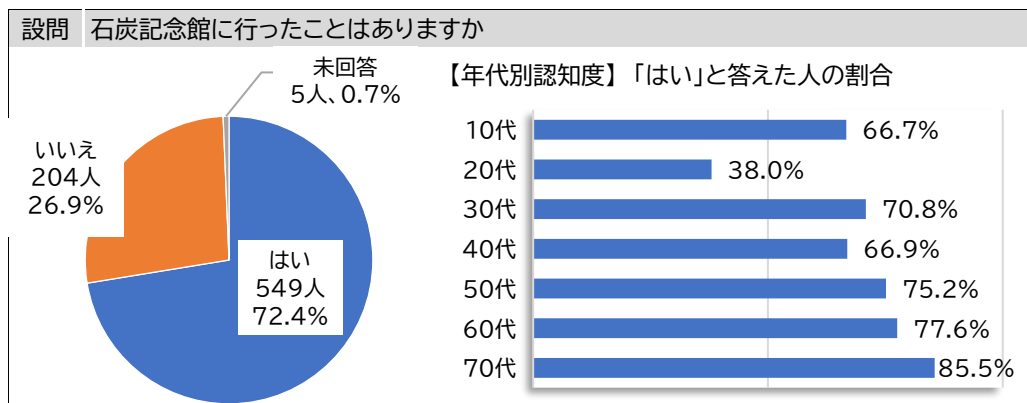
(3) 石炭記念館の認知度

宇部市に石炭記念館があることを知っていた人の割合は、全体で89.6%でした。これを年代別で見ると、一番高い割合を示したのが70歳代で97.4%、一番低い割合が20歳代の62.0%となっています。



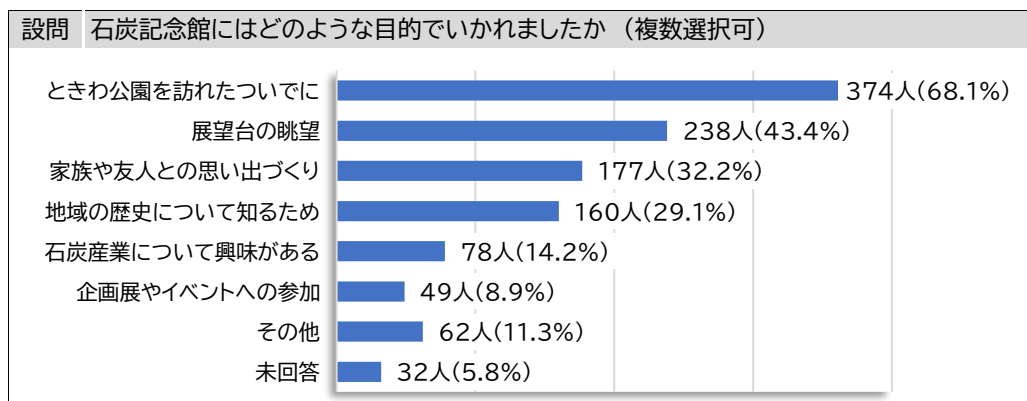
(4) 石炭記念館への来館経験

石炭記念館に来館したことがある人の割合は、全体で72.4%でした。これを年代別で見ると、一番高い割合を示したのが70歳代で85.5%、一番低い割合が20歳代の38.0%となっています。



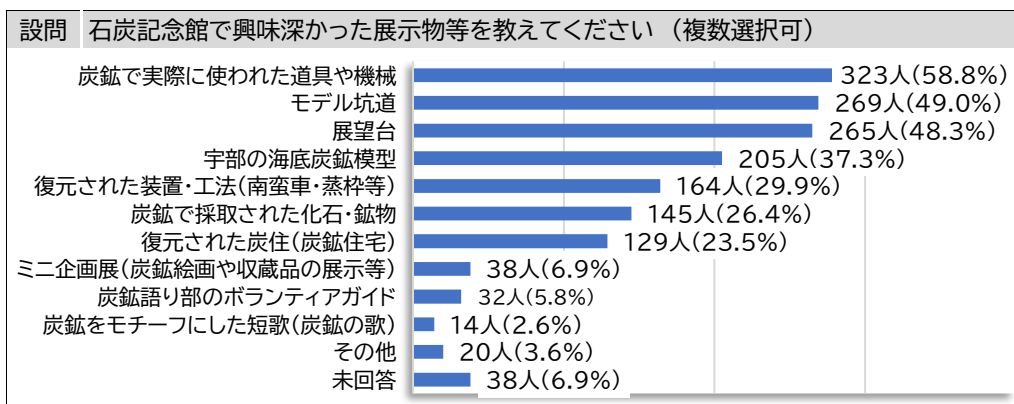
(5) 石炭記念館への来館目的

石炭記念館の来館目的で一番多い回答は、「ときわ公園を訪れたついでに」で68.1%、次に多い回答は「展望台の眺望」で43.4%となっています。目的については、全ての年代で同様の傾向を示しています。



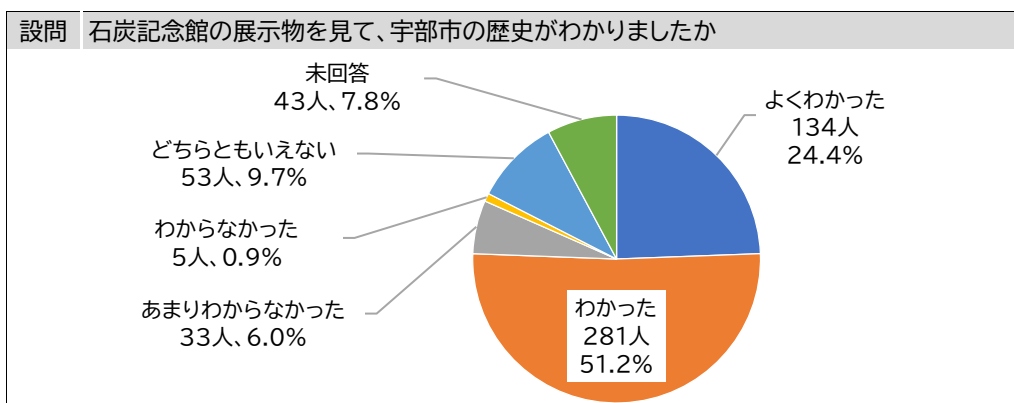
(6) 興味を引く展示物

最も興味深い展示物等として回答が多かったのは、「炭鉱で実際に使われた道具や機械」で58.8%、次いで「モデル坑道」49.0%、「展望台」48.3%の順に多い結果となっています。



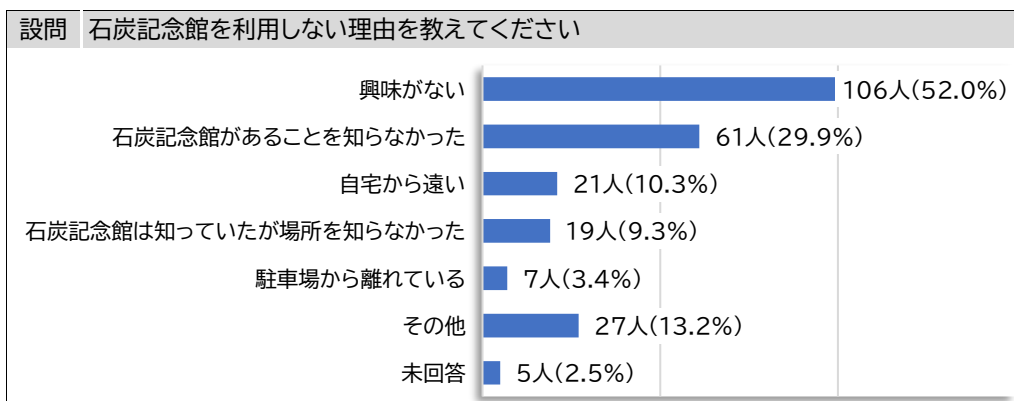
(7) 展示の解りやすさ

石炭記念館の展示物を見て宇部市の歴史を理解できたかについて、「よくわかった」が24.4%、「わかった」が51.2%で、来館者の4分の3が理解できたという回答結果になっています。



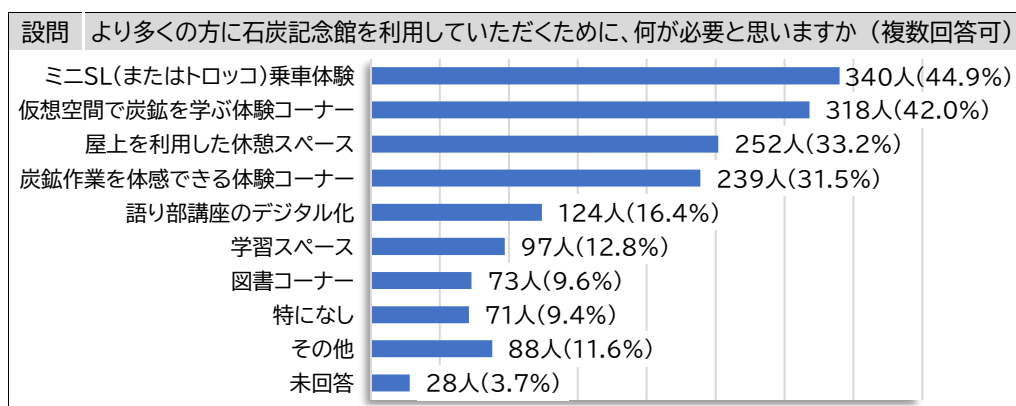
(8) 石炭記念館を利用しない理由

(4)の設問で来館したことがないと回答した人(204人)の理由として、最も多いのが「興味がない」の52.0%で、回答者の半数以上を占める結果となっています。次いで多いのが「石炭記念館があることを知らなかった」の29.9%でした。



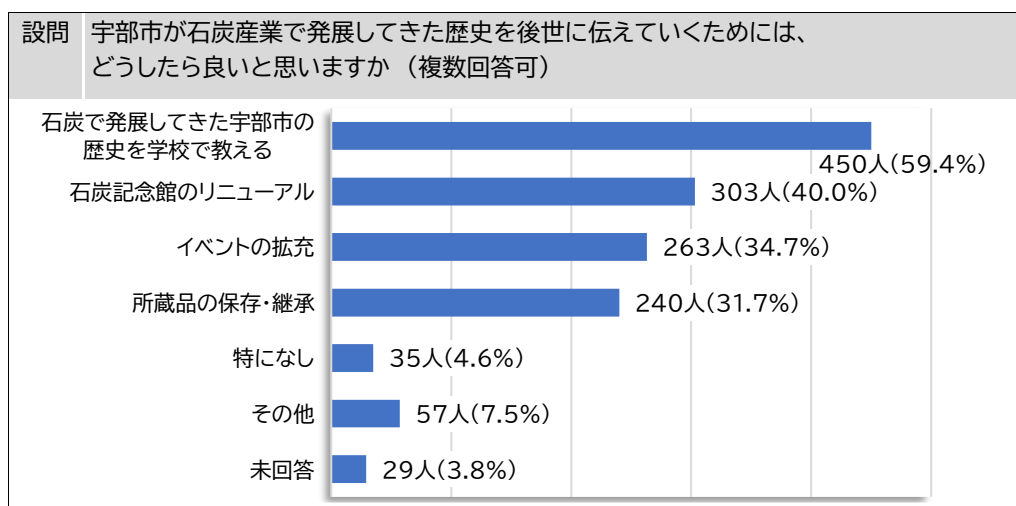
(9) 石炭記念館の利用者増のために必要なもの

「ミニ SL(またはトロツコ)乗車体験」の回答が44.9%と最も多く、次いで「仮想空間で炭鉱を学ぶ体験コーナー」の42.0%となっており、見るだけでなく体験できる展示を望む声が多い結果となっています。



(10) 宇部市の歴史を伝承していくために必要なこと

「学校で教える」の回答が59.4%と最も多く、次いで「石炭記念館のリニューアル」の40.0%となっています。



4 現在の石炭記念館が抱える課題

1 提言書に示された課題

検討委員会の提言書では、施設（ハード面）、展示・収蔵品、ソフト事業の分野ごとに、次のような課題が示されました。

(1) 施設（ハード面）

①老朽化	老朽化が進み、耐震改修も実施されていないため、建物の耐震補強等による長寿命化、もしくは建て替え等の検討が必要。
②有効活用	屋上スペースは、展望台を下から臨めるなど見晴らしの良い場所だが、現状は関係者以外立入禁止であるため、屋上スペース活用の検討が必要。
③アクセス	場所がわかりづらく、園内外の案内看板も不足。また、坂道があるため、高齢者等の来館が難しい。公園内の誘導方法やアクセス経路（園路）の改善が必要。

(2) 展示・収蔵品

①展示手法	展示物が並べられただけの状態で、難解でわかりにくい。展示手法の見直しや、VR 等の最新技術の投入等も必要。
②未来へのアプローチ	現在の石炭の現状や未来のエネルギー事情について述べた展示が少ない。炭鉱史だけでなく、現在、未来のエネルギー等にまつわる展示も必要。
③ストーリー	展示構成はそれぞれが独立しており、つながりに乏しく一貫性がない。ストーリー性のある展示順路への見直しが必要。
④修理	古い情報の映像資料や、破損・故障している模型等、展示品が老朽化していることから、展示品の更新が必要。
⑤屋内環境	空調設備が一部無いなど、収蔵品にとって劣悪な環境にある。展示物、収蔵品を守る環境整備（保存環境、防火・防犯・防災対策）が必要。
⑥分かりやすさ	展示キャプションやパネルは日本語表記しかない。また、内容も子どもなどには分かりづらい。外国語対応の音声ガイドを取り入れるなど、展示物の解説方法についての改善が必要。
⑦収納	重要な資料を保存するためのスペースが無いため、収蔵庫の確保が必要。

(3) ソフト事業

①情報発信	石炭記念館に関する広報活動や情報発信ができていない。情報発信の手法や内容の見直し等が必要。
②イベント	企画展やイベントが少なく、内容も魅力がないため、参加者が少ない。他イベントとの連携、ターゲットを見据えた企画の見直し、共創イベントの開催が必要。
③担い手	学芸員をはじめ、歴史を伝える人材が不足している。歴史を後世に伝える人材育成や教育普及を進めるための人材確保が必要。
④他施設等との連携	社会教育施設であるが教育機関や図書館等との連携が図れていない。教育機関、市内及び他市町村の博物館、図書館等との連携強化が必要。
⑤学習環境	教育・学習のためのワークスペースの確保が必要。

2 行政が抱える課題

(1) 施設の法的位置付け

2023年(令和5年)4月1日に改正博物館法が施行されました。改正博物館法では、従来の社会教育法に加えて、文化芸術基本法に基づくことが新たに定められました。これによって、これからの博物館には、社会教育施設と文化施設の双方の役割を併せ持つ施設として活動することが求められることになりました。

宇部市石炭記念館は、前述のとおり博物館法に位置付けのない博物館類似施設ですが、改正博物館法が求める社会教育施設と文化施設の2つの性格を有する施設であり、地域の文化活動のハブとなる施設として整理していく必要があると考えます。

(2) 施設の運営体制

石炭記念館の運営については、2011年(平成23年)から専従職員を配置し、教育普及事業や集客事業などを中心に取り組んできました、資料の調査研究については、人員不足から十分に取り組まれていないのが現状です。

また、文化や教育分野での取組が不十分な状況にあるなど、組織と人的体制のあり方が課題となっており、新たな担い手の確保・育成の検討を進める必要があります。

(3) 情報発信の不足

石炭記念館の紹介や本市の石炭産業の歴史などの基礎情報は、ときわ公園公式サイトに掲載していますが、当初からほとんど情報が更新されていません。

また、フェイスブックやInstagram等のSNSを活用した情報発信にも取り組んできましたが、その内容はイベント情報等に限られています。

石炭や本市の歴史等に興味がわき、石炭記念館やイベントに来たくなるような情報発信となるよう、内容や手法等を見直していく必要があります。

(4) 他施設との連携

3章の9(16ページ)でも紹介したとおり、現在、日本国内には石炭をテーマとした博物館・資料館が10施設あります。

石炭産業への関心を高めるためには、類似施設等と展示品の貸借を行うなどして、飽きさせない仕組みを構築していく必要があります。

5 これからの石炭記念館が果たすべき役割

これまで石炭記念館は、本市の石炭産業発展の歩みと、それとともに醸成された文化を伝えていく場として、重要な役割を果たしてきました。

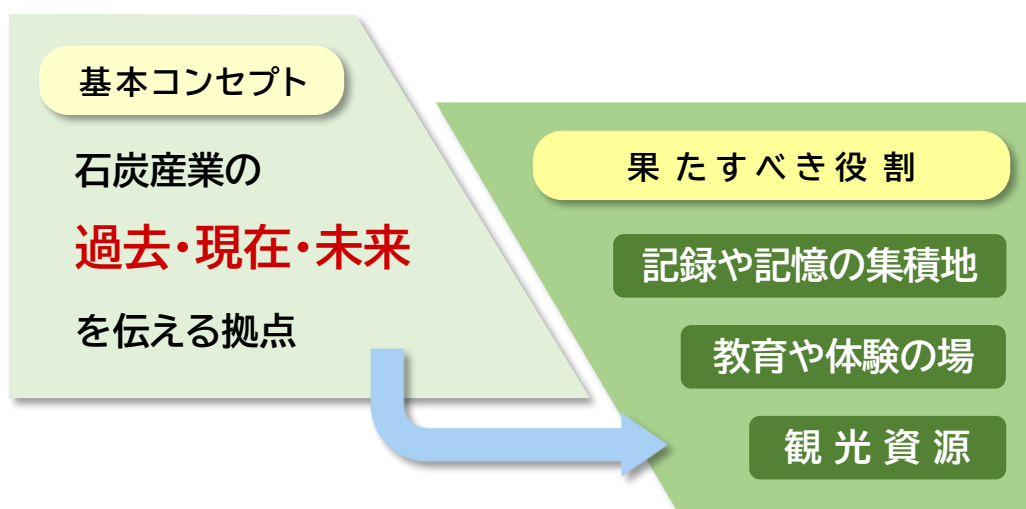
その一方、現在では脱炭素社会の形成という時流から、石炭をはじめ化石燃料に対して厳しい目が向けられる状況にあり、石炭記念館の使命は終わったとする意見もあります。

しかし、石炭産業により培われた掘削技術や保安技術などは、今もトンネル建設工事などで技術移転する形で活躍し続けています。また、石炭は、現在でも鉄製品やセメントの原料に使われるなど、私たちが日常生活を送るうえで重要な役割を担っています。

検討委員会の提言書では、こうした現状を踏まえ、「石炭産業を過去のものとして捉えるだけでなく、石炭が生み出した都市のパワーや石炭活用の可能性を踏まえて未来を展望することがこれからますます重要になってくる。その情報発信の中心的役割を果たすのが石炭記念館である。」と提言されています。そして、「石炭記念館は宇部市にとって恒久的な価値ある施設との位置づけのもとで、新たな時代にも十分に耐えうる機能をもった施設へと生まれ変わっていくことが重要」とされ、今後の石炭記念館の意義・目的として、次の3点を挙げられました。

- ①近代化産業遺産群(九州北部・山口県の石炭産業)の宇部炭鉱関連遺産として登録された所蔵品には全国的に珍しい資料もあり、当時の竪坑櫓を利用した展望台は全国にも類を見ない特徴的なものであること。
- ②これらを本市の貴重な観光資源として積極的に活用していくべきであること。
- ③これまで行ってきた資料収集・保管や教育普及などといった活動についても一層促進していくこと。

この意見を踏まえ、石炭記念館の今後の基本コンセプト、果たすべき役割を次のように示します。



6 石炭記念館に求められるもの

本章では、これからの石炭記念館の基本コンセプトである「石炭産業の過去・現在・未来を伝える拠点」の実現に向け、果たすべき3点の役割を実践する上で必要と考えられる機能、取組、検討方針について、次のフロー図の流れでまとめます。

役割を実現するために求められる機能



機能を発揮するための基本的な取組



検 討 方 針

【施設全体のリニューアル方針について】

※ 施設全体のリニューアルについては、既存建物の改修(増築も含む)を基本に検討を進め、「建物の価値」・「コスト面」を考慮したうえで判断していきます。

1 機能

(1) 「記録や記憶の集積地」としての機能

① 収集・管理・公開

- 石炭産業に関連する各種資料(道具、機材、紙資料、映像、音声フィルム等)の収集、整理、公開。

② 調査研究

- 資料や文献の調査研究、研究を通して得た成果の集積及び公開。

(2) 「教育や体験の場」としての機能

① 石炭産業の過去・現在・未来を学習できる場

- かつての石炭産業を中心とした歴史や文化の展示
- 現在の石炭エネルギーの活用状況や未来の活用の可能性についての展示

② 体験を通して学べる場

- 見て、触れて、動かすことができる体験・体感型の常設展示
- ワークショップ等の実施による体験の場の創出

③ 誰もが分かりやすく学べる場

- 年齢や国籍に関わらず理解しやすい展示・説明

(3)「観光資源」としての機能

① 文化観光資源

- 文化資源の観覧を通じて、文化について理解を深めることを目的とした観光を促進する

② 公園内随一のビュースポット

- 豎坑櫓を活用した全国的にも珍しい展望台

2 基本的な取組

(1)「記録や記憶の集積地」を実現するための取組

① 資料等の保存環境の整備

- 資料等を適切に保管するための収蔵スペースを確保します。
- 資料等のデジタル・アーカイブ化実現に向けた環境整備を行います。

② オンラインサービスの充実

- 資料等のデジタル・アーカイブ化を推進し、オンライン上で閲覧できるようにします。
- メタバース空間で石炭記念館を疑似体験できる環境の構築を検討します。

③ 市民団体との連携強化

- 歴史を記録し伝承する活動を行う市民団体等と連携し、情報の集積を行います。

(2)「教育や体験の場」を実現するための取組

① 石炭産業の過去・現在・未来を学習できる場づくり

- 石炭エネルギーの現状や、未来の可能性についての展示を導入します。
- ストーリー性やコンセプトをもった展示レイアウトに見直します。

② 体験を通して学べる場づくり

- 触れる・体感する要素を取り入れた展示手法を取り入れます。
- VR等のデジタル技術を取り入れるなど、展示手法を見直します。
- ワークショップの内容や実施回数の改善を図ります。

③ 誰もが分かりやすく学べる仕組みづくり

- 子ども向けキャプションを導入するなど、わかりやすい解説方法に見直します。
- 多言語対応を図るため、パネル標記の見直しや音声ガイドの導入等を行います。

④ 他施設との連携強化

- 市内の図書館や学びの森くすのき等と連携し、石炭について学ぶ場や機会を創出します。
- 学校教育と連携し、学習プログラムや出前講座等の充実を図ります。
- 全国の石炭関連博物館等との連携を強化し、企画展等の充実を図ります。

(3) 「観光資源」として活用するための取組

① 訪れやすい環境づくり

- 石炭記念館へのアクセス性を向上するため、公園内にある誘導看板の設置場所や表示内容を見直します。
- 石炭記念館までのアクセス経路(園路)について、歩きやすい環境となるようコースや周辺樹木等の見直しを検討します。

② 展望台(竪坑櫓)の保全

- 老朽化した竪坑櫓の補修を行います。

③ 情報発信の充実・改善

- 講座的な内容を含め、情報の内容の充実を図り、更新頻度を高めていきます。
- 情報発信媒体について、SNS 等のさまざまなコンテンツを活用していきます。

④ イベントの見直し

- より魅力があり、広域からの集客が期待できるイベントを企画します。

3 検討方針

(1) 市の運営体制

基本的な取組を推進していく上では、人的体制を見直す必要があることから、施設の運営体制について見直しを検討します。併せて民間活力の導入や入館料の有料化などについても検討していきます。

(2) 市民団体との連携

宇部市には、石炭産業の歴史を記録し、伝承する活動を行なう市民団体が複数あります。こうした団体との連携を強め、市民の研究成果を蓄積するとともに、新たに市民と石炭記念館が共同で調査研究を行うことができる体制づくりを目指します。

(3) 教育機関との連携

石炭産業と一言で言っても、歴史学はもちろんのこと、地質学、機械工学などその分野は多岐に渡ります。これまでは炭鉱史を中心に調査研究を進めてきましたが、今後、現在や未来の石炭エネルギーを展示テーマに取り入れるためには、新たな専門的知識も必要になってきます。

このため、教育機関等と連携を図り、有識者の助言や指導を受けるとともに、教育機関と石炭記念館が共同で調査研究を行うことができる体制づくりを目指します。

7 今後の進め方

1 スケジュール

本基本構想は、検討委員会の提言書を基に、より具体的な石炭記念館のあり方を挙げて、今後の計画推進の基礎となる理念や概要をまとめたものです。

施設のリニューアル方針、施設の改修の方向性や事業手法については、次の基本計画の段階で、より詳細に整理を行います。

2024(令和6)年度上旬

リニューアル基本構想策定



2024(令和6)年度

リニューアル基本計画(仮称)策定

- 具体的な機能や耐震性・環境性能等の検討
- 事業計画
(建物のゾーニング、事業費、事業スケジュール)

2 基本計画策定に向けての進め方

2024年度(令和6年度)中の策定を予定している「石炭記念館リニューアル基本計画(仮称)」は、リニューアルの方針、施設の改修の方向性や事業手法を取りまとめるもので、石炭記念館改修の設計・工事を進める上で根幹となる計画となります。

計画策定の進め方は、まず初めに、基本構想を基に施設に導入する具体的な機能や耐震性・環境性能等について検討します。次に、建物のゾーニング計画や事業費、事業スケジュールなどの事業計画を検討し、基本計画(素案)を作成し、パブリックコメントを実施していくことになります。

なお、基本計画については、提言を頂いた「宇部市石炭記念館あり方検討委員会」を始め、関係団体や市民などの意見もお聞きしながら、令和7年3月を目途に取りまとめたいと考えています。